

## 平成29年度 長野市産業振興審議会 第1回 農業振興専門分科会の概要

日時 平成29年7月27日(木) 午前9時30分～午前11時30分

場所 長野市役所 第一庁舎 7階 第一委員会室

出席者 長野市産業振興審議会農業振興専門分科会委員 10名

事務局職員:農林部長、農林部次長兼農業土木課長、農林部次長兼のしか対策課長、農業政策課長、農業委員会事務局長 ほか15名

会議事項 長野市農業振興アクションプランの実施状況(平成28年度)について

番号	テーマ	分類	意見等内容
1	重点施策1	新規就農者の定住	新規就農者の住まいの確保について、農業政策課が担当ではないと思うが、うまく連携をしていただきたい。実際、自分の地域の中で空き家調査を実施してみると、79件中38件が空き家ということであるが、中には、時々は来ていて貸し出す気がない家主なもおり、現状はなかなかうまくいかない。新規就農者が増えていく中、中山間地域の荒廃農地を減らすことを考えれば、やはり、住み着いていただくことが大事である。
2	重点施策1	農家の実態調査の必要性	全体として農業者はどのような構成になっていて、農業収入がどのくらいで、今後どういった農業者を増やしていくのか、考える必要はあると思う。例えば、毎年収入を上げている農家が1%から2%増えているのであれば、積極的に直売所で頑張っているおじいちゃん、おばあちゃんがこれだけいるといったことが具体的に見えるような調査があってもいいと思う。実際、3千万円くらいの売り上げがあれば、大規模経営のイメージが出てくるが、それまでは税金の支払いなどで経営が苦しい状況が続いていると思う。農家の実態がもう少し数値として表れてくると、売り上げや収益を上げるためにはここをもう少し良くすればいい、こういう農業だったらやりたいという人が出てきて、農業に対して興味を持ち、一定の売り上げ規模の農業を目指すといったインセンティブが高まり、もっと生産を頑張ってみようといった思いが出てくると思う。最近はシャインマスカットが多く売れている状況であり、頑張っってそこに投資している人も結構いる。ただ生産量が増えてきてしまうと値下がりもあり得るが、やはり意欲が出て儲かりそうなところを重点的にクローズアップすることも、産業として成り立つための一つのステップであると思う。
3	重点施策1	振興作物の拡大	例えば、ぶどう棚の面積など、これはいけると思ったら予算を増やして新植面積を拡大する取組も大事だと思う。

番号	テーマ	分類	意見等内容
4	重点施策1	里親制度の活用方法	<p>里親制度はぶどう農家の希望が一番多く、須坂の方では若手が多い。一生懸命修行して、自分で自作園を始められる人も多く、非常にいい制度だと思う。農業は地域ごとに目指す方向性ややり方が異なる。そのため、全く経験がなく、人を雇ったこともない人が新たに農業を始めるよりも、従業員を雇って稼ぎ、利益を上げている人たちが分家するなど、新しい農家がそこから育ち、ノウハウを広げていく取組があるとよい。里親制度の一つの役割は、そのような取組に対し、人を集めて調整するなど支援していただくことだと思う。市としても、どのような環境やグループであれば育つのかを積極的に見てもらいたい。グリーン長野農協管内のりんご農家の中に何件か例があるほか、コメ農家で一生懸命やっている方もいる。行政も一緒になって支援し、次の育成者、後継者を育てていくという流れがもう少しできてほしいと思う。</p>
5	重点施策2	産地パワーアップ事業の活用	<p>須坂、小布施、中野方面では、産地パワーアップ事業を使ってシャインマスカットの長期冷蔵によるリレー販売を実施していると聞いている。長野市農業再生協議会の中でも、産地パワーアップ事業についての話しが出ていたが、JAグリーン長野農協では、別の事業を使って長期冷蔵を実施している。長野市でも実施していただきたい。</p> <p>中野市ではぶどう棚が30年から40年とだいぶ老朽化していると聞いている。今年のように重い雪が降ると棚がつぶれるので、冷蔵庫だけでなく、ぶどう棚も産地パワーアップ事業で建て替え、生産量を落とさずにうまくいっている。現実には、冷蔵庫だけではなかなか難しいので、棚とセットで実施を促すような体制を研究してほしい。</p>
6	重点施策2	小規模農家への支援	<p>アクションプランの中では、農業を大きくやっている農家の支援について触れられている。しかし個人でやっている農家もいるはずである。個人農家の中には、様々な面で困っている人たちもいると思う。そういう人たちに目を付けた記述が見当たらない。将来像の「三実一体」の中で、「未来につなぐ！豊かな大地に根ざした誇りある農業」とある。ことばの中には大きな農業だけでなく、兼業の農業であるとか、1反歩、2反歩を個人でやっている農業なども含まれており、そういう人たちの支援もある程度考えていかなければ、今後農業をやっていく人たちがほとんどいなくなってしまうと思う。</p>
7	重点施策2	直売所支援	<p>「おいしいながのスタンプラリー」について、一昨年と昨年と2年やってみたが、なかなかスタンプが一杯にならなくて終わってしまったが、利用されている方はどのくらいいるのだろう。また、スタンプの対象となる直売所は毎年同じであるので広くPRを考えてほしい。</p>
8	重点施策2	農業研修センター	<p>農業研修センター入口に看板があると分かりやすい。通りからだとは何もなく、どこが駐車場はどうやって行くのかが分かりにくい。</p>

番号	テーマ	分類	意見等内容
9	重点施策2	野生鳥獣対策としての狩猟免許取得の推進	住んでいる地域で、イノシシやシカなどが出ており、地区の有害鳥獣対策協議会では対策を実施しているところであるが、狩猟免許を持っている方がとても少なく、有害鳥獣が出ていても捕まえることができない現状である。協議会によると、80歳を過ぎてやむを得ず狩猟免許を取った方もいるという話しを聞く。なるべく若い方に狩猟免許を取っていただき、地元へ貢献していただくよう、市からも協議会に積極的に働きかけを行い、鳥獣害の被害が少なくなるように支援をお願いしたい。
10	重点施策2	市民農園開設の支援	コミわか農園では、耕作放棄地を再生して農園がどんどん広がっている。順々に再生を進めて市民に開放しており、いつも満杯で荒れているところもなくきれいになっている。市民農園に対する支援も引き続きお願いしたい。
11	その他	農業事故防止の啓発	最近、よく知っている酪農家が堆肥作業中に農業事故で亡くなった。集落の農地をほとんど一人で管理していたということもあって、担い手として重要な存在であり、ちょっとした事故で亡くなってしまうことは大きな損失だと感じている。30年くらい堆肥を作っていたので、プロ中のプロであり、ちょっとした気の緩みであった。 近所では、果樹作業を見ている、SSで樹木の下を飛び回っていたり、乗用草刈り機を使うなど、見事に機械を使いこなしているが、やはり、どこに危険が潜んでいるか分からない。乗用車に比べると農業機械は危険だらけであるので、その危険性について今以上にPRしていただきたい。、あるいは関係の皆さんにも会合など機会があれば、ぜひ安全に気をつけることを一言添えていただきたい。JAにも安全フレームのチェックなど万全を期していただきたい。貴重な担い手を失うと、あちこちで大きな影響が及ぶので、行政も含め関係者が皆で、基本的な農作業の安全を見直していただければと思う。
12	その他	小中学生の農業体験の推進	農業体験について、市立長野中で既に活動されているが、長野市内の他の小中学校でも多く取り組んでいただきたい。中山間地域の農地にもぜひバスを使って出かけて来ていただいて、農山村ではどんな農業をやっているのか、どのように農地を守っているのかというようなことを社会勉強の一環として見ていただきたい。できれば地元の子供も大人になったときに職業選択として農業を選んでほしい。今、農業研修生を県外から多く受け入れているが、できれば地元から受け入れることができれば住むところも心配なくていいし、それが一番いい結果に結びつくと思う。農業体験をしていただくということをぜひお願いしたい。